

予防接種を受けに行く前に

☆予防接種に行く前のチェック☆

- 1 子どもの体調はよいですか。
- 2 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応などを理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモにしておきましょう。
- 3 母子健康手帳は持ちましたか。
- 4 予診票の記入はすみしましたか。

1 一般的注意

予防接種は体調のよいときに受けるのが原則です。日頃から保護者は子どもの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけ医や保健所、市担当課に相談してください。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断して下さい。

- (1) 当日は、朝から子どもの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。
予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種をするかどうか判断するようにしましょう。
- (2) 受ける予定の予防接種について、通知やパンフレットをよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- (3) 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。
- (4) 予診票は接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
- (5) 予防接種を受ける子どもの日頃の健康状態をよく知っている保護者が連れていきましょう。

なお、予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、接種に同意したときに限り、接種が行われます。

2 予防接種を受けることができない場合

- (1) 明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます。）をしている子ども
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな子ども
急性で重症な病気にかかっている子どもは、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です。
- (3) その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな子ども
「アナフィラキシー」というのは通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。
- (4) 麻しん（はしか）、風しん、水痘（水ぼうそう）及びおたふくかぜの予防接種の対象者で妊娠していることが明らかな人
子どもには直接関係がない規則ですが、任意で受ける人のことも考慮したものです。
- (5) BCG接種の場合においては、外傷などによるケロイドが認められる子ども

- (6) B型肝炎の予防接種の対象者で、母子感染予防として、出生後にB型肝炎ワクチンの接種を受けた子ども
- (7) ロタウイルス感染症の予防接種の対象者で、腸重積症の既往歴があることが明らかな子ども、先天性消化管障害を有する子ども（その治療が完了した子どもを除く。）及び重症複合免疫不全症の所見が認められる子ども
- (8) その他、医師が不適切な状態と判断した場合

上の(1)～(8)に当てはまらなくても医師が接種不相当と判断したときは、予防接種を受けることはできません。

3 予防接種を受ける際に注意を要する場合

以下に該当すると思われる保護者は、かかりつけ医がいる場合には必ず前もって子どもを診てもらい、予防接種を受けてよいかどうかを判断してもらいましょう。受ける場合には、かかりつけ医のところで接種を受けるか、あるいは診断書又は意見書などをもらってから他の医療機関で予防接種を受けるようにしてください。

- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている子ども
- (2) 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた子ども及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた子ども
- (3) 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある子ども
けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起きているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- (4) 過去に免疫不全の診断がなされている子ども及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる子ども（たとえば、赤ちゃんの頃、肛門のまわりにおできを繰り返すようなことがあった人の場合）
- (5) ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがありますので、これらにアレルギーがあるといわれたことのある子ども
- (6) BCG接種の場合においては、家族に結核患者がいて長期に接触があった場合など、過去に結核に感染している疑いのある子ども
- (7) ロタウイルス感染症の予防接種においては、活動性胃腸疾患や下痢などの胃腸障害のある子ども

4 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと30分間程度は、医療機関（施設）で子どもの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2) 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4) 接種当日は、はげしい運動は避けましょう。
- (5) 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察をうけましょう。